

平成28年11月伊勢原市教育委員会定例会議事録

平成28年11月21日（月）午前9時30分から伊勢原市教育委員会定例会を伊勢原市役所第2委員会室に招集した。

1 出席した委員は次のとおり。

委員長	永井武義
委員長職務代理者	重田恵美子
委員	菅原順子
委員	渡辺正美
教育長	鈴木教之

2 会議説明のための出席者は次のとおり。

教育部長	谷亀博久
学校教育担当部長	大高敏夫
歴史文化推進担当部長	山口讓
教育総務課長	古清水千多歌
学校教育課長	守屋康弘
指導室長	石渡誠一
社会教育課長	小谷裕二
文化財課長	立花実
スポーツ課長	小巻宏幸
教育センター所長	本多由佳里
図書館・子ども科学館長	麻生ひろ美

3 会議書記は次のとおり。

教育総務課 総務係長	瀬尾哲也
------------	------

4 議事日程

日程第1 前回議事録の承認
日程第2 委員長報告
日程第3 教育長報告

----- ○ -----
午前9時30分 開会

○委員長【永井武義】 ただいまから教育委員会議を開催いたします。

----- ○ -----

日程第1 前回議事録の承認

- 委員長【永井武義】 日程第1「前回議事録の承認」をお願いいたします。
- 委員全員 異議無く承認し、署名する。

----- ○ -----

日程第2 委員長報告

○委員長【永井武義】 日程第2「委員長報告」です。お手元の資料1にございますが、去る11月17日木曜日、平成28年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会がやまと芸術文化ホールで開催されました。当日配付されました名簿によりますと、県内27市町村から118名が出席されました。伊勢原市からは私を含め、重田委員、菅原委員、渡辺委員、谷亀教育部長、瀬尾教育総務係長の6名で参加をいたしました。

開会前の時間を利用して、11月3日にオープンしたばかりの施設「シリウス」を見学しました。大和駅からほど近いこの施設は6階建てで、研修会場となったやまと芸術文化ホールのほかに、図書館、生涯学習センター、屋内子ども広場が入っており、大和市文化創造拠点を構成し、6社で構成する指定管理者が運営しています。カフェやコンビニエンスストアもあり、おしゃれで居心地のよい創造性にあふれた空間といった雰囲気でした。

研修会に先立ち、大和市の青蔭教育長職務代理者から施設の紹介があり、この機会に学校図書館の在り方や読書機会について、わが市、わが町のことと捉えて考えてほしいと御挨拶がありました。

さて、研修会は、全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザーの藤田利江氏を講師にお招きして「学校図書館が果たす役割～学校図書館支援の現状から～」と題する講演を拝聴しました。学校司書の配置、図書館の充実、電算化等との課題と向き合いながら、学校図書館の役割について、荒川区や大和市、江戸川区での先生の支援の実践例を挙げて説明され、図書「室」ではなく学校図書「館」であること、学校図書館は生涯学習の基礎であること、学校司書と司書教諭の違いや、学校図書館は教育の中核であるなどといったことについて示唆、教示を得ました。

また、学校図書館を支援した結果として、総合の授業での利用が減り教科での利用が増えたこと、また、利用者数や貸し出し数の増加、児童生徒の変容などについて報告がありました。予算や組織の問題、環境整備等、伊勢原市に置きかえると難しい点も多いところですが、学校図書館の位置付けや教員が持つイメージの改善については進めるべきであり、できることから環境整備を行う必要があると考えさせられた研修会でした。この研修に参加の機会が得られたことに感謝し、報告とさせていただきます。

それでは、御意見、御質問などがございましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。無ければ次に移ります。

----- ○ -----

日程第3 教育長報告

○委員長【永井武義】 日程第3「教育長報告」をお願いいたします。

○教育部長【谷亀博久】 それでは私から報告させていただきます。本日4件
ございます。1件目が市議会10月臨時会の総括質疑の答弁の概要。2件目が平
成28年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析。3件目が平成27年度児童
生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の伊勢原市の調査結果。4件
目が小中学校の冬季休業期間中の児童・生徒指導。それぞれ所管の部長から報告
させていただきます。

まず1件目でございます。市議会10月臨時会での総括質疑の答弁の内容でござ
います。去る10月28日の本会議におきまして、平成27年度伊勢原市一般
会計歳入歳出決算の認定及び各特別会計歳入歳出決算の認定について、総括質疑
が行われました。教育委員会関係では、萩原鉄也議員と横田典之議員のお二人か
ら御質問をいただきました。それでは順次、所管する部長から報告させていただきます。

○学校教育担当部長【大高敏夫】 それではまず私から報告いたします。資料
2を御覧ください。

萩原鉄也議員より中期戦略事業プラン最終年の取組と成果についての中で、
「子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる」事業の成果と今後の課題について
再質問がございました。

これにつきましては、社会変化や環境変化に対応し、児童生徒の学習や生活の
支援、学校施設の安全、学習環境の改善を図るために取り組んできたもので、大
きく2つの政策を掲げております。「きめ細やかな教育の推進」と「安全で快適
な教育環境の整備」でございます。「きめ細やかな教育の推進」については、小
学校教科担当制推進事業、外国語教育推進事業、地域人材家庭教育支援事業、教
育相談事業の4つの事業の成果と課題。「安全で快適な教育環境の整備」につい
ては、伊勢原小学校、山王中学校の外壁修繕と、伊勢原中学校の屋内運動場屋根
修繕の工事の実施について答弁いたしました。

○教育部長【谷亀博久】 続きまして、同じく萩原議員より「いつまでも学び
生きがいがあるまちをつくる」事業の実績と成果についての再質問でございま
した。内容的には、社会教育課及びスポーツ課所管の事業でございます。生涯学
習の充実を図るため、7公民館で141講座、延べ約5,500人の参加を得たこ
と。また、生涯学習ボランティア協会が企画する市民大学や東海大学と連携した
講座を開催したことを答弁いたしました。

スポーツ関係では、市総体や市選手権を開催し、5,000人を超える参加を得

たこと。また、県立伊勢原射撃場を活用したビームライフル体験教室の開催や、同施設を利用した和歌山国体が開催されたことなど、多くの市民の方に射撃場に来ていただいたことを答弁いたしました。他にも27年度については、新たなスポーツ活動の場として、上満寺多目的スポーツ広場を整備したことを答弁いたしました。

○歴史文化推進担当部長【山口譲】 同じく萩原議員の「いつまでも学び生きがいがあるまちをつくる」事業の実績と成果の中で、宝城坊本堂の保存修理完了後の事業展開といった内容で再質問がございました。

この工事は、御承知のとおり平成22年度年から本年度までの7年間の継続事業でございました。答弁では始めに工事内容と工事期間中の取組を説明した上で、今後についてお答えいたしました。工事期間中の取組として、現場見学会を12回開催し、市内外から約2千人の方に参加していただいたこと。平成27年度は3回開催し、530人の参加がありましたこと。あわせて講演会や写真パネルの展示会を開催してきましたことを答弁いたしました。

修理完了後の取組として、現時点で予定している宝城坊をテーマとした講演会を12月に1回、年明け1月に1回開催することを答弁いたしました。

○教育部長【谷亀博久】 続きまして、横田典之議員からの御質問でございます。主要な施策の成果についての中で、小中学校の校舎老朽化への対応についての御質問があり、市長が答弁をしております。

小中学校の校舎は、子どもたちの学習や生活の場だけではなく、避難所施設となる重要な施設に位置付けられていること。本市の学校施設については、昭和40年代から50年代にかけて増築や新設校の建設が集中したことから老朽化も同時に進行し、現在も多くの学校で修繕需要が高まっていること。今後は老朽化対策に要する財源の確保が課題であることを答弁いたしました。

同じく横田議員からの御質問で、一般会計の執行状況ということで、具体的には教育費の不用額が若干出たので、その不用額を活用すれば中学校給食やエアコン設置に着手できたのではないかと御質問がございました。

答弁としては、年度当初に財政課から示されます事務事業の執行についてという通知の中で、予算執行方針に基づき経費縮減を図ること。執行残については、不用額として処理すること。予算流用については、厳格化に努めること。そういった内容が財政課から示されているという答弁とあわせ、御意見いただいた中学校給食やエアコン設置については、計画的に予算を計上して執行すべき性質のものであるといった答弁をいたしました。

○学校教育担当部長【大高敏夫】 それでは、2件目の平成28年度全国学力・学習状況調査の伊勢原市の結果及び分析についてで、ホームページで公表する内容がまとまりましたことを報告いたします。

内容については資料3を御覧ください。先日の校長会において、各学校から保護者会や地域連絡会、学校だより等を通じて周知をしてもらうようお願いしております。特に資料の7ページに記載しています「家庭にお願いしたいこと」に関しては、是非、保護者会等で伝えてくださいとお願いしております。

また、児童生徒へ指導する教員に対しては、各学校で問題提起をしていただき、教育委員会としては、教員に対する研修等で指導を行っていく予定でございます。今月中には市のホームページで公表していく予定です。

続きまして、3件目の文部科学省の「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の伊勢原市の調査結果についてでございます。

資料4を御覧ください。この調査は毎年度、文部科学省が全国の全ての小学校、中学校、高等学校を対象に、暴力行為、いじめ、不登校、自殺、出席停止の状況を調査・集計しているもので、今回の調査については、10月27日に文部科学省が公表し、翌日28日に新聞等で報道されています。

伊勢原市の調査結果の概要についてですが、平成27年度の暴力行為については、小学校で6件、中学校13件、小中学校合計で19件発生しました。26年度より3件の減となっております。1,000人当たりの発生件数は、伊勢原市が2.5件、中地区が6.6件、神奈川県が10.4件、そして全国が5.0件となっており、伊勢原市の発生率が低いことが分かります。

続いて平成27年度のいじめの認知件数についてですが、小学校が31件、中学校が19件、小中学校合計で50件、26年度より11件の増となっております。1,000人当たりの認知件数は、伊勢原市が6.6件、中地区が25.4件、神奈川県が11.4件、そして全国が21.0件となっており、伊勢原市の認知率が低いことが分かります。

最後に平成27年度の不登校児童生徒につきましては、小学校22人、中学校79人、小中学校合計で101人、26年度より17人の増となっております。1,000人当たりの発生人数は、伊勢原市が13.3人、中地区が12.0人、神奈川県が13.4人、そして全国が12.6人となっており、伊勢原市は中地区、県、そして全国の発生率とほぼ同程度となっております。

それでは、暴力行為に関する分析について報告いたします。資料の2ページを御覧ください。形態別では、小学校では児童間トラブルが原因で気持ちを制御できなくなり近くにあったものを壊したり、かっとなって他の児童に手を出したケースなどで、4件の器物損壊、2件の生徒間暴力が発生しました。

中学校では、ネット上のトラブルが原因で、一方が相手の顔を殴ったケースなどで、8件の生徒間暴力が発生しました。生徒間トラブルが原因で気持ちを制御できなくなり、近くにあったものを壊したケースなどで5件の器物損壊が発生しました。中学校においては、件数としては生徒間暴力、器物損壊が多いものの、対教師暴力はありませんでした。なお、同一の生徒が5回以上暴力行為を繰り返した例はありませんでした。

続きまして、いじめの状況につきまして報告いたします。資料の3ページを御覧ください。市内小中学校のいじめの認知件数の推移がでございます。小中学校全体の態様別で一番多かったのは、冷やかしかからかい、嫌なことを言われるなどが最も多く、次に、軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。3番目として、仲間外れ、集団による無視をされるといった順となっております。いじめは、双方の人間関係や認識のずれなどで、その判断や対応が難

しいケースもありますが、双方からの話をしっかり聞き、被害者側を守ることを最優先とした対応が必要と考えます。また、悪質ないじめの内容につきましては、犯罪行為として警察等と連携しながら解決を図ることも必要と考えております。

このような認識のもと、各学校ではまずは第一に、いじめの発生防止を目指しますが、万が一いじめが発生した場合には、その早期発見、早期解決が図られるよう資料に記載しているような取組をチームを組んで日々行っております。

なお、平成27年度に認知したいじめにつきましては、50件全て改善しており、改善率は100%となっております。

次に5ページを御覧ください。こちらは、どのようにしていじめが発見されたかという内容を示したものでございます。上段には教職員が発見したもの、そして下段には本人、保護者、友人等の教師以外からの情報により発見に至った件数の推移でございます。平成27年度に認知された50件のうち18件は教職員が発見し、32件については、本人、保護者、友人等からの情報提供により発見されております。平成26年度と比較いたしまして、本人及び保護者が訴えるケースが増えています。この要因といたしましては、認知件数全体が前年度より増加したことにもよりますが、平成26年度に各学校でいじめ防止基本方針を策定した結果、各校が以前よりいじめに対する校内の指導体制の充実を図る中で、年間複数回のアンケート調査や面談等を実施するなどし、今まで以上に児童生徒が声を上げやすい雰囲気づくりや、いじめは絶対に許されないものという教職員の継続した指導にも一因があると考えております。

続きまして、不登校児童生徒の分析について報告いたします。資料の6ページを御覧ください。平成27年度不登校児童生徒数の推移がでございます。学年別を見ますと、平成27年度は中学校3年生で増加が見られました。27年度の指導結果では、約75%の不登校児童生徒について、登校できるようになったり、学校に興味を示すようになったり、好ましい変化が見られました。

自殺及び問題行動に対して教育委員会が命じる出席停止についての結果ですが、伊勢原市は両調査ともゼロ件でございます。

今回報告いたしました暴力行為、いじめ、不登校につきましては、各学校において非常に重要な問題と捉えております。各校の教職員は、日ごろから家庭や地域、関係機関と連携した指導・支援を重ねています。教育委員会としても、今後各学校との連携をさらに充実させる中で、さらなる各問題行動の解決に努めてまいりたいと考えています。

続きまして、教育長報告最後の4件目です。冬季休業期間中の児童・生徒指導について報告をいたします。資料5を御覧ください。なお、本日お配りしたこの資料につきましては、今年度用の資料がまだ神奈川県教育委員会から示されておられませんので、昨年度のものを参考に配付させていただいております。県教育委員会に確認しましたところ、今年度版については、2点ほど内容が加えられるとのことです。1点目は、不審者から声をかけられる事案が増えていることから、不審者への注意及び対応で、その中には公衆電話の使い方も盛り込まれるようです。2点目は、長期休業終了後の学期始め等の時期において、児童生徒の心身の

状況や行動に変化が出やすいことから、休み明けの児童生徒への対応の充実を加えるとのことです。この2点が加えられる以外は大きな変更はないとのことです。この資料を使って順次説明させていただきます。

市内小中学校については、今年度は12月25日から1月7日までの2週間で冬季休業となります。土日の関係で12月22日木曜日に2学期の終業式を行い、1月10日火曜日に始業式を行いますので、休みとしては18日間ございます。

冬季休業を迎えるに当たって、各校の校長には、12月7日開催の校長会を通じて学習指導、生活に係る指導、健康・安全指導、緊急指導體制の確認、そして冬季休業後の児童生徒指導について、職員への周知と児童生徒への指導を依頼いたします。

指導内容としては、まず冬季休業期間中における計画的かつ規則正しい生活の継続はもちろんのことですが、特に交通安全や誘拐・痴漢等に対する防犯。次に年末年始の賑やかな雰囲気の影響された深夜徘徊や無断外泊、金銭トラブル等の防止。また、スマートフォン、携帯電話等の安全安心な利用方法等について、重点的に指導をお願いしたいと考えております。さらに中学校には、3年生に対し、進路決定に係る緊張や不安等、心の動揺への配慮、対応、これらについてもお願いしてまいります。また、不登校、生活の乱れ、友人間のトラブル等で心配のある児童生徒については、冬季休業中に学校が電話連絡や家庭訪問等を実施する中で、きめ細やかな指導に努めるよう、あわせてお願いをしております。

なお、資料の最後には、児童生徒や保護者が相談できる県及び伊勢原市の相談機関を掲載しています。学校から保護者や児童生徒へ周知していただくよう、こちらについても依頼をしております。

○委員長【永井武義】 ただいま4件の教育長報告がありましたが、これに関連して御意見、御質問等がございましたら御発言願います。

○委員【渡辺正美】 冬季休業中の児童生徒指導をしていくに当たって、これをするな、あれをするなという指導がなされますが、そうではなくて、こういうことをしましょうといった子どもの自発性を促したり、家庭の中での振る舞い等、子どもが自分を高める方向に持って行くような項目を是非入れていただきたいと思えます。担任の教員はそういった話もされているとは思いますが、県が示した指導内容に、そういった伊勢原市の指導内容を上手く盛り込んでいただければいいのかなと思えます。

○指導室長【石渡誠一】 御意見ありがとうございます。学校にとっても、どうしてもこういった通知ですと、禁止事項ですとか、「何々しない」というような表現が多いので、担任もなるべく「このようにしよう」というような意識で指導しています。生徒会等からの文書も含め、改めて教育委員会から児童生徒への指導の仕方について、学校をお願いしていきたいと思えます。

○委員長【永井武義】 今の冬季休業期間中の児童生徒指導の関連ですが、指導事項で不審者対応が加わり、公衆電話の使い方が盛り込まれるとのことです。現在、公衆電話が減ってきた中で、伊勢原ではそういった具体的な事例はあったのでしょうか。

○指導室長【石渡誠一】 千葉で大学生が中学生を監禁し、被害の中学生が公衆電話から110番通報をして無事保護されるという事件がありました。この事件を受けて既に各学校では、児童生徒に対し、いざというときにはお金を使わなくても公衆電話から110番と119番はかけることができることを指導しております。本市においては、そういった事例があったとの報告は今のところ受けておりません。

○委員長【永井武義】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員【菅原順子】 いくつかよろしいでしょうか。まず市議会の総括質疑の中で、9千3百万円の不用額に関する質問がありました。これは何の事業費の残額ですか。

○教育部長【谷亀博久】 この不用額は、教育費全体の金額でございます。不用額とは、計上した予算額に対する残額です。例えば工事等の入札を行った結果の差金ですとか、当初予定していた人数が減ったりしたようなさまざまな要因により、予算額と執行額に差が生じたものです。そうした不用額を中学校給食の導入といった経費に流用することはできないといった答弁をさせていただきました。

○委員【菅原順子】 ありがとうございます。

次に全国学力・学習状況調査です。まず1点目は、「普段、1日当たりどれぐらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか」という質問に対してです。全国と比較して伊勢原市はすごく減っていますが、これには何か理由があるのかお伺いします。

それからもう1つは、「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」といった質問に対する答えが前から伊勢原市は低いですね。特に中学校では、先生方がその振り返りをきちんと行っているというのが100%であるにもかかわらず、生徒がそれを受けとめていないというずれがあると思います。そのあたりに対して、教育委員会として具体的な指導等がなされていればお伺いします。

○指導室長【石渡誠一】 1点目のテレビやビデオの視聴時間の減少が見られたという件ですが、その理由はよくわかっておりません。引き続き分析に努めます。

2点目については、昨年度も御指摘いただいた御意見だと思います。率直に申し上げれば、まだまだ反省すべきところがあるかと思えます。教員の年次研修やその他のさまざまな研修の場において、継続的に指導を行っておりますが、今回の結果も踏まえまして、改めて各校の学力・学習状況調査の担当者が集まる場や校長会等を通じ、授業で行っている学習のねらい、振り返りが児童生徒にしっかりと意識付けられるよう学校全体でこの課題に取り組んでほしいとお願いしています。

○委員【菅原順子】 ありがとうございます。

続いて、児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査についてですが、今回の結果では、1人が5件以上の暴力行為を起こす重複はないと分かりま

したが。また重複自体も小学校ではなかったようですが、中学では、生徒間暴力は5人に対して8件、器物損壊については、3人に対して5件ということなので、この重複の状況について教えていただきたいのですが。

○指導室長【石渡誠一】 このことにつきましては、子どもと教員の信頼関係を築きながら丁寧に指導することで、何回も繰り返す子どもは減ってきていると思います。

○委員【菅原順子】 いじめが明るみになるケースとして、アンケート調査によるものが7件あるのですが、そのアンケート調査について詳しく教えていただけますか。例えば教育委員会で決まったフォーマットがあるとか、学校別に独自のものを使っているとか。回数は年に何回なのかとか。

○指導室長【石渡誠一】 アンケートにつきましては、市のフォーマットというものはございません。各校で以前から使っていた学校生活に関するアンケート様式があり、そのアンケートの中に、いじめに気がつくとか、友達で困っている子はいないかというような項目があり、そこから気になる部分について教員が情報を収集して、いじめが疑われるような内容の記載があれば、適宜対応していくということです。

回数は各校で違いはあるのですが、2回から4回行っております。その他に教育相談等の中で「困っていることはない?」「気になる子はいない?」というような質問をして、何かあれば直ぐに情報収集ができるような体制をとっております。

○委員【菅原順子】 いじめに特化したアンケートというよりも、生活調査のようなアンケートの中で、いじめについても触れているということですか。

○指導室長【石渡誠一】 両方ございます。いじめに特化したアンケートを行っている学校もありますし、併用している学校もあります。それぞれの学校の状況に応じて行っております。また、対象については、基本的には児童生徒ですが、保護者向けのアンケートも実施しております。これは、児童生徒向けとは別に、年1回程度行っております。

○委員【重田恵美子】 横浜の中学生のいじめ問題がありましたが、伊勢原にも東日本大震災の後、こちらに転入された方がいらっしゃると思うのですが、そういう方たちの状況は把握できているのでしょうか。

○指導室長【石渡誠一】 東日本大震災を機に伊勢原に住所を移してきた、または向こうに住所を残したままこちらに避難している方は、年度によっても違うのですが、児童生徒で大体10名程おります。震災当時にも今回横浜でありましたような放射線等による風評被害等が心配されましたので、各学校においては、そういったことによって避難してきた子どもたちが重ねて苦しむことのないよう、十分な配慮をするようにと伝えております。今回の件で、当時の担当にも話を伺ったのですが、そういった案件は、当時も報告はなかったとのこと。現在も10名程度おまして、当時は未就学でしたが、こちらに来て小学校に入学した子どももおりますので、現状を把握していきたいと思います。

○委員【重田恵美子】 そうしますと、今回の調査結果には、そういったいじ

めはないと捉えてよろしいのでしょうか。

○指導室長【石渡誠一】 はい。

○委員【渡辺正美】 暴力行為等の関係ですが、実は複数回繰り返すような器物破損等は、これまで見てきた中で、教師の指導に従えず、暴力行為を繰り返すような子どもは何人かはいました。子どもですので必ずしも成長期の段階で教師の指導に従えない子どももあり、そういった子どもは、かなり確信的に悪いことと承知してやっており、これからもそういった子どもは出てくるだろうとは思いますが。

こういった問題に対しては、必ずしも先生方の指導で解決できるような時代ではないと思いますし、そうしたことは皆認識しています。特に中学の先生方は、これまでの自らの経験の中で分かっていますので、そのような行為が起こった場合には、伊勢原市は警察や学警連との連携がしっかりできていると思いますので、先生方と警察が協力しながら解決を図っていくというようなことが必要ではないかと思えます。この調査結果に出ている数字は、暴力行為といじめに分けられています。実際に行われている生徒指導というのは渾然一体となった児童生徒指導が行われていると思いますので、学校内の教員の情報共有だけではなく、警察や児童相談所等の関係機関とも連携しながら問題解決を図っていくのがいいのかなと思います。

○指導室長【石渡誠一】 ありがとうございます。まさに渡辺委員のおっしゃるとおりで、学校内はもちろん、警察や児童相談所、その他の関係機関との連携を大事にして、今後も児童生徒の指導に当たっていきたいと思います。

○委員長【永井武義】 私からも1点、いじめに関する所感です。よく報道等では、いじめの内容は冷やかしか悪口が6割であると言われていたのですが、まさにそのとおりの結果だと今回の数字を見て感じました。先ほどの平成28年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒の生活に対する意識に関しての項目で、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対し、「そう思う」という回答の割合が非常に高かったのですが、今後、道徳教育の充実はもちろんのことですが、熱心な教育活動によって、さらにこの意識が高まっていくことを期待したいと思いますし、一方で、思春期の子どもたちは、親にも言えない悩みが結構あると思います。そうした深刻な悩みを抱えた子どもたちに対しては、一番子どもと接する機会が多い先生方が一番に気づくと思いますので、変化に気づくとともに、日々の指導を先生自身が見直しながら継続して指導をしていくことが大事なのではないかと思えます。先生方は、今後も子どもたちを支える存在であってほしいと思います。

○指導室長【石渡誠一】 学校にも是非伝えていきたいと思えます。貴重な御意見をありがとうございます。

○委員長【永井武義】 他にございますか。

よろしいでしょうか。それでは次に移りたいと思えます。

----- ○ -----

その他事項

○委員長【永井武義】 続きまして、その他事項でございますが、教育委員の皆様から何かございますか。

よろしいでしょうか。それでは事務局から報告をお願いいたします。

○教育センター所長【本多由佳里】 それでは、平成28年度姉妹都市ラミラダ市教育視察研修派遣について、教育センターから報告いたします。資料6を御覧ください。

去る10月24日月曜日から10月31日月曜日まで、教育視察研修のため、桜台小学校と伊勢原中学校の教員2名を姉妹都市ラミラダ市へ派遣しました。現地では、小・中・高等学校等を視察し、派遣した2名の教員からは、教職員や児童生徒との交流、教育委員会関係者との面談、また、視察テーマである中学校と音楽教育や、アメリカにおけるインクルーシブ教育の実際について見聞したことは、大変貴重な体験であり、有意義な内容であったという報告を受けております。

なお、研修の報告については、次年度の教育センター研究発表会で行う予定です。また、市長、教育長への帰国報告は、明日11月22日を予定しております。

○指導室長【石渡誠一】 続きまして、平成28年度伊勢原市学校・地域連絡調整会議の協議内容について、指導室から報告いたします。資料7を御覧ください。

11月2日水曜日に、市役所の2C会議室で開催いたしました。伊勢原市学校・地域連絡調整会議につきましては、各小中学校において、地域等の代表者が集まり設置している、いわゆる地域連絡会の代表者が年1回この時期に集まり、子どもたちの健やかな育成を促すことを目的に、平成14年度から学校、家庭、地域及び行政が実践すべき事柄の検討、協議、連絡、調整を図るために開催しております。

委員については、各学校によってさまざまですが、地域の諸団体の代表の方やPTA会長、あるいは小中学校の校長、自治会長が委員として御参加いただいております。本年度は比々多小学校PTA会長の廣田委員を調整会議の会長、竹園小学校PTA会長の鈴木委員を副会長として選出し、グループ協議、全体協議を行いました。

グループ協議の内容については、事前に3点お示しをしておりました。1点目が子どもたちの読書活動。2点目が地域行事等への子どもたちの参加。3点目が挨拶運動や見守り活動を通じた子どもたちの交流。この3点について、当日それぞれのグループで協議しやすいテーマを選んでいただきました。

4つのグループでは、それぞれ3つのテーマに触れつつも、どのグループも地域の行事と子どもたちのかかわりについて活発な意見交換がなされていきました。全体協議の場でも、引き続き同じ内容で協議が進められ、地域で子どもたちを見守っていく環境が変わりつつある中で、新たな取組が進んでいることや各校の取組の情報を提供していただくなど、充実した内容であったと思います。意見の詳

細については、後ほど資料を御覧いただければと思います。この内容については、各校長へもお知らせしていますので、各校でのそれぞれの地域連絡会の資料としたり、保護者へのたより等で活用したりしていただきたい旨を伝えております。

○文化財課長【立花実】　　続きまして文化財課から、平成28年度の文化財保護強調週間の事業として実施いたしました国の登録有形文化財の特別公開について報告いたします。資料8を御覧ください。

文化庁が定めました文化財保護強調週間は、文化財の保護と活用を推進するため、毎年11月3日の文化の日を中心に、文化財の活用に関する事業の実施を促していくというものです。この強調週間にあわせまして、本市では、普段は公開していない国の登録文化財の特別公開を実施いたしました。本年度は、上粕屋の山口家住宅と西富岡の小澤家住宅の2カ所に加えまして、昨年度登録されました高部屋神社を含めました3カ所について、11月6日の日曜日にそれぞれの所有者、関係者の方々の御協力のもと、公開をいたしました。参加者は3カ所合計で109名でした。また、公開に当たりまして、市で養成しました歴史解説アドバイザーの方に受付、誘導、説明等のサポートをしていただきました。

続きまして、資料9を御覧ください。前回の定例会の後に現地を御案内させていただきました宝城坊の本堂でございますが、一昨日、昨日と、竣工式と落慶法要が行われまして、無事、保存修理工事を完了することができました。この間に、教育委員会としましては、文化財を将来に継承していく意義や、伊勢原市の文化財の素晴らしさを実感していただくために、修理現場の公開等の事業を実施してまいりました。

この度、修理工事の完成を記念いたしまして、本堂をテーマとした講演会を実施することといたしました。講師は、文化財保護審議会委員で、宝城坊本堂の修理委員会の委員長もお務めいただいた清水擴先生です。演題は、「仏堂建築の展開と宝城坊薬師堂」で、やや堅いタイトルになっておりますが、修理事業を通じて明らかになりました事実を踏まえまして、建築の歴史から見た宝城坊本堂の位置付け、評価といった内容になると思います。日程については、12月11日の日曜日、午後2時開演。場所は中央公民館の展示ホールで、入場無料でございます。

また、1月になります。実際に現場で保存修理を手がけました設計管理事務所の方に、修理工事の苦労話を交えたより具体的なお話をしていただくことも予定しております。

○社会教育課長【小谷裕二】　　続いて、第28回市民音楽会について、社会教育課から報告させていただきます。資料10を御覧ください。

伊勢原市音楽家協会の協力を得まして、普段はあまり馴染みが少ないクラシック音楽を市民の方が身近な場所で鑑賞し、楽しんでいただく機会として開催しております。より多くの方に気軽にということで入場は無料にしております。1月29日の日曜日に市民文化会館大ホールで開催いたします。この機会に是非、多くの方に足を運んでいただければと思います。

○教育総務課長【古清水千多歌】　　続きまして、伊勢原市人権啓発講演会の開

催についてです。資料11を御覧ください。

平成28年12月6日火曜日、午後1時30分から伊勢原市民文化会館で開催いたします。講師は作家で僧侶の家田荘子さんです。演題は、「一緒に生きていきましょう」です。現在、かなりの多くの方のお申し込みをいただいている状況で、会場を小ホールから大ホールに変更して開催することになっています。

続きまして、平成29年「消防出初式」及び「新春市民の集い」についてです。資料12を御覧ください。

平成29年の消防出初式及び新春市民の集いにつきましては、平成29年1月8日の日曜日、出初式が午前9時30分から、新春市民の集いが午前11時30分から伊勢原市総合運動公園で開催いたします。

続きまして、教育委員会12月定例会につきまして、12月27日火曜日、午前9時30分から市役所3階の第2委員会室での開催となります。

○委員長【永井武義】 ただいまの事務局からの報告で、御意見、御質問等、ございましたらお願いいたします。

○委員【渡辺正美】 いくつかあります。まず、資料7の学校・地域連絡協議会ですが、メンバーを見ますと、今年の市のPTA連絡協議会の会長は、学校のPTAの会長を兼ねてない関係で、この協議会に入っていないんですが、今回の協議内容を考えたら、市のPTAの中心である市P連会長が加わっていてもいいのかなと感じました。私が聞く限りですと、現在、市P連が進めようとしている活動は、まさに今回の協議の内容を進めているので、是非その辺のことについては、来年度以降に向けて検討していただければと思いました。

○教育長【鈴木教之】 渡辺委員から御意見いただいた学校・地域連絡調整会議の市P連の会長の件について、事務局としての意見はどうか。

○指導室長【石渡誠一】 検討し、市P連の事務局とも調整させていただきます。

○教育長【鈴木教之】 要綱上はどうなっていますか。

○指導室長【石渡誠一】 委員以外の者でも必要があると認めるときは会議への出席を求めることができると規定されていますので、是非、積極的に検討してまいりたいと思います。

○委員【重田恵美子】 冬季休業期間中の児童・生徒指導の話に関連して子ども話ですが、先日、学校訪問で竹園小学校を伺った際に、児童が放課後にボランティアの方たちのもとで読書会を行ったり、さまざまな活動をする放課後子ども教室を見学させていただきました。子どもたちにとっても親御さんにとっても大変安心できる環境を行政が提供しているのだなと感じました。また、協力していただくボランティアの方々に対しては、本当に頭が下がる思いです。ただ一方で、これは市長部局の子ども部管轄の事業だということを前置きしたうえで話しますが、ボランティアの方々为学校内で子どもと接するという観点から、行政としてボランティアの方々をどのような経緯でお願いしているのかが気になりました。

○委員【渡辺正美】 今のことに関連して、よろしいでしょうか。今のボラン

ティアの話に限ったことではないのですが、現在、学校に入って活動される方が大変増えています。昔は正規の教職員に加え、臨時的任用職員、非常勤講師で学校運営がなされ、教職員の履歴書や健康診断書をもらい、しっかりと確認をして採用していました。最近はさまざまな形で学校協力者が学校に入ってきて子どもたちと活動していますが、そのような状況の中、今後は教育委員会として、健康状態や本人の履歴について、どこまで確認していく必要があるのかといったことを議論し、一定の方向性なり、考え方を整理する必要があるのではないのでしょうか。ただ、あまり厳しくしても協力者がいなくなってしまうことも考えられますので、なかなか難しいとは思いますが、上手く議論、検討していただければと思います。

○教育部長【谷亀博久】 竹園小学校の放課後子ども教室については、青少年課の事業になりますので、青少年課に実態を確認したいと思います。学校と地域の連携、地域の人材活用は必要なことは間違いないので、いい形でできるように話し合っていきたいと思います。

○教育長【鈴木教之】 基本的に雇用関係にある場合は、事前に健康状態や志望動機等を聴取することは可能ですけど、ボランティアは難しいと思います。ボランティアの行政としての位置付けは、社会教育や市民協働といった範疇に入ってくると思いますので、一般常識の中で、感染症等はだめですとか、あるいは個人の価値観を押しつけることはだめですということを理解、認識して活動してもらえないと思います。ただ、この問題は、教育委員会だけでなく市長部局も関係してくる話でもあるので、上手く整理する必要があると思います。

○委員【菅原順子】 学校を開放していくという方向性は、とても良いことだと思います。

○学校教育担当部長【大高敏夫】 そういう人の出入りがある環境を上手く交流の場やお互いが顔見知りになりながら活動できる場にする方がいいのではないかと思います。今はとにかく学校を使ってくださいというスタンスですので、学校サイドとしては、教職員が積極的にそのような場に足を運び、子どもや大人の様子を見にいくような形になっていると思います。

○教育長【鈴木教之】 今の一連の話については、子ども部長なり所管課に、教育委員会としてそうした意見があったという話は伝えてください。

○委員長【永井武義】 よろしいでしょうか。

それでは、本日の教育委員会議はこれをもって閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

----- ○ -----

午前10時55分 閉会

《会議配布資料》

- 資料 1 : 平成28年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会
- 資料 2 : 市議会10月臨時会総括質疑答弁の概要
- 資料 3 : 平成28年度全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析
- 資料 4 : 文部科学省「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」伊勢原市の調査結果
- 資料 5 : 冬季休業期間中の児童・生徒指導
- 資料 6 : 平成28年度姉妹都市（ラミラダ市）教育視察研修派遣
- 資料 7 : 平成28年度伊勢原市学校・地域連絡調整会議の協議内容
- 資料 8 : 国登録有形文化財特別公開
- 資料 9 : 宝城坊本堂完成記念講演会
- 資料10 : 第28回市民音楽会
- 資料11 : 伊勢原市人権啓発講演会
- 資料12 : 平成29年「消防出初式」・「新春市民の集い」

《その他配付資料》

- ・教育委員会関連主要行事一覧（平成28年度12月・1月）
- ・平成27年度版 伊勢原の図書館
- ・平成27年度版 伊勢原市立子ども科学館年報
- ・E d u N e w s 第72号
- ・E d u c o No.42